

課題	- 山口市ではマイカーでの移動に依存した状況がこのまま 続けば、負のスパイラルにより公共交通の利便 性はさらに低下。 - 公共交通による既存の輸送資源を有効活用し、利便性向上が必要(現状、山口市の特急停車駅に二次交通は整備されているが鉄道と連携した案内が不十分)		
プロジェクト概要	[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)] - MaaSアプリを用いて、経路検索、特急列車予約時の着駅の二次交通案内 - MaaSアプリの経路検索にデマンド交通、タクシーアプリを表示させ、予約を可能とする。	事業エリア/交通事業	事業エリア:山口市／ ・西日本旅客鉄道株式会社(山口線 新山口駅、湯田温泉駅、山口駅) ・富士第一交通(新山口～長門市直行便デマンドの運行事業者) ・山口市内のタクシー事業者 ・山口市内のバス事業者
	[モビリティ・データの取得と活用] - 以下の二次交通の利用状況、デジタルチケットの販売数、MaaSアプリの経路検索・特急列車予約情報から二次交通案内ページへの流入数を測定 - タクシー予約数(時間帯別) (日本版ライドシェア含む) - デマンド交通予約数 - チケット販売数(新山口～長門市/tabiwa)	MaaSアプリ等	- WESTER(JR西日本) - やまぐちTAXIアプリ(REA) - デマンド交通予約システム(JR西日本)
	[エンドコンテンツとの連携] - 交通空白解消に向けた取組みとして、課題のある駅に対して取組みを実施していく。 2026年秋に山口DCが予定されており、観光地との2次アクセスの認知度向上を図る。 - 分析を令和9年度策定予定の山口市地域公共交通計画策定にも活用する。	データの活用等	- データの取得方法 MaaSアプリからの二次交通案内ページへの流入数、タクシー予約数(時間帯別)、 デマンド交通予約数 - データの活用方法 山口市の地域公共交通会議、地域公共交通計画策定に活用
		座組	スケジュール
効果	- マイカーに頼り過ぎない交通まちづくり、公共交通機関利用者の増加。 - 市民の地域公共交通の利用増(バスやタクシーなどの公共交通の利用頻度の向上) - 市外の旅行者の地域公共交通利用増(タクシーアプリ、新山口～長門市直行便の利用者向上)	山口市 告知、データ分析を将来的な公共交通計画に活用 バス事業者 経路検索データ作成 JR西日本 全体統括 システム開発 デマンド予約システム提供 日本旅行 やまぐちTAXIアプリ システム提供 リアル研究所 タクシー事業者 タクシー運行 4～6月 要件定義 7～9月 システム開発 10月～12月	